

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも「百姓宣言」

【熊登半島地震被災JAへの訪問】

7月1日(月)～2日(火)の2日間で、石川県熊登半島地震の被災JAを訪問してまいりました。2月7～8日に一度訪問させていただき、2回目となります。今回は、被災後半年、前回訪問後5カ月が経過し、その後の復旧・復興の状況の確認や、各JAでの現在の課題等について伺いさせていただきました。前回に引き続き被災された6JA(JA石川かほく、JAはくい、JA志賀、JA能登わかば、JAのと、JA内浦町)を訪問させていただきました。各JAの組合長をはじめ役員の方々と意見交換させていただきました。また、ホリ乳業様にも前回に引き続き訪問させていただきました。現状の課題等を伺いました。

全体的に受けた印象として、仮設住宅の建設は思ったより進んでいると感じた一方で、公費解体がすすんでおらず、倒壊した家屋がそのままの状態となっている状況が多いように感じました。各JAの皆様からは、解体業者が足りず順番待ちの状況だとおっしゃられて



▲JAのと管内施設視察(7月2日)

いました。営農についても、液状化・暗渠の破壊、段差や亀裂の発生により、作付けが困難となっている場合も多数ある状況でした。また、市町村行政の対応スピードや判断の柔軟さに課題があるといった話も多くありました。今回もたくさんのご意見や現状を伺いましたので、国政への反映と個別案件に寄り添った対応を引き続き行っております。

【全国を飛び回っております】

6月23日に通常国会が閉会した後、全国比例区の国会議員として、全国を飛び回っております。積極的にお声がけ頂く地域も言え、可能な限り各地を訪問しております。各地で伺ったご意見や拝見した地域の状況について、来年度の予算概算要求や秋の臨時国会以降の法案審議、食料・農業・農村基本計画の策定等の検討の中で、国政への反映に努めてまいります。

【6月下旬～7月の間で訪問した地域】

- ・JA東京中央・JA世田谷目黒訪問
- ・栃木県大田原市酪農関連施設等訪問
- ・石川県熊登半島地震被災6JA訪問
- ・JAグループ愛知による国政報告会
- ・熊本県内5JA訪問
- ・山口県宇部市内農場等視察
- ・福岡市内訪問(参議院自民党副幹事長用務)
- ・JAグループ埼玉による国政報告会
- ・JAおきなわ多良間地区和牛改良組合等視察、宮古地区畜産関連施設等視察
- ・JA大井川青壮年部意見交換会(東京で開催)
- ・長崎県吉岐市訪問
- ・岩手県内5JA訪問・JAグループ岩手による国政報告会
- ・高知県農協青壮年連盟70周年記念式典出席
- ・熊本県指導農業士協議会総会出席
- ・JA岡山県青壮年部との意見交換会

全国・県農政連推薦
参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

川崎平右衛門の遺徳を讃え、「協同」の大切さを見直す

【川崎平右衛門フェスタ】

2024 in 所沢 開催される
去る7月14日、埼玉県所沢市において、「川崎平右衛門フェスタ2024 in 所沢」が開催され、私は、「川崎平右衛門顕彰会」会長として、ご挨拶させていただきました。

皆さんは、川崎平右衛門という人物をご存じでしょうか？江戸中期の8代将軍徳川吉宗の時代に、享保の改革の一環として、武蔵野全域に82の新田開発が大々的に行われましたが、村人たちの「協同」の力を引き出すことによってこれを成功に導いたのが川崎平右衛門でした。その功績が認められ、のちに美濃三川の治水工事や石見銀山の再興を託されました。わが国の「協同組合」の先駆けとされる二宮尊徳や大原幽学より約100



に於いて
川崎平右衛門フェスタ

年も前の人物です。

彼のそのような遺徳を偲んで、2017年5月に、「川崎平右衛門顕彰会」研究会が設立されました。それ以降、毎年場所を変えて、研究会が開催され、一昨年から「川崎平右衛門フェスタ」として開催されるようになりました。

【先人たちの「協同」の努力に感謝を】

先日、農政の憲法とも言われる「食料・農業・農村基本法」が四半世紀ぶりに改正されましたが、ご案内の通り、農業の担い手の高齢化が進み、将来に向けて、担い手の数も激減すると予想されているなど、農業の持続可能性に懸念が生じています。

また、温暖化による世界的な異常気象の頻発や国際紛争による食料輸入の途絶も現実味を帯びてきています。わが国は、残念ながら、経済成長が著しい諸外国に、食料を買い負けるようになりました。もはや海外から食料を、安価に好きなだけ買える時代ではなくなってきました。

国民の生命と財産を守ることは、国家としての責務であり、いかなる場合でも、国民に食料を安定的に供給できるように、持続可能な日本農業を実現していかなければなりません。

江戸時代に、決して肥沃とは言えない土地を懸命に開墾し、用水を開鑿かいさくとして、新田開発を行った多くの先人たちの苦勞による農業生産基盤の整備が、今につながっているのです。

そうした意味で、年に一度のフェスタで、先人たちの「協同」の努力に思いを致すことは、大変意義のあることではないでしょうか。